

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-B-19-0433_改0
提出年月日	2021年8月3日

VI-2-9-4-6-1-1 管の耐震性についての計算書
(原子炉格納容器フィルタベント系)

02 ③ VI-2-9-4-6-1-1 R0

2021年8月

東北電力株式会社

重大事故等対処設備

目次

1. 概要	1
2. 概略系統図及び鳥瞰図	2
2.1 概略系統図	2
2.2 鳥瞰図	5
3. 計算条件	9
3.1 計算方法	9
3.2 荷重の組合せ及び許容応力状態	10
3.3 設計条件	11
3.4 材料及び許容応力評価条件	15
3.5 設計用地震力	16
4. 解析結果及び評価	17
4.1 固有周期及び設計震度	17
4.2 評価結果	23
4.2.1 管の応力評価結果	23
4.2.2 支持構造物評価結果	24
4.2.3 弁の動的機能維持評価結果	25
4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果	26

1. 概要

本計算書は、添付書類「VI-2-1-13-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、原子炉格納容器フィルタベント系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを説明するものである。

評価結果の記載方法は、以下に示すとおりである。

(1) 管

工事計画記載範囲の管のうち、各応力区分における最大応力評価点の評価結果を解析モデル単位に記載する。また、全 10 モデルのうち、各応力区分における最大応力評価点の許容値／発生値（以下「裕度」という。）が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。各応力区分における代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を 4.2.4 に記載する。

(2) 支持構造物

工事計画記載範囲の支持点のうち、種類及び型式単位に反力が最大となる支持点の評価結果を代表として記載する。

(3) 弁

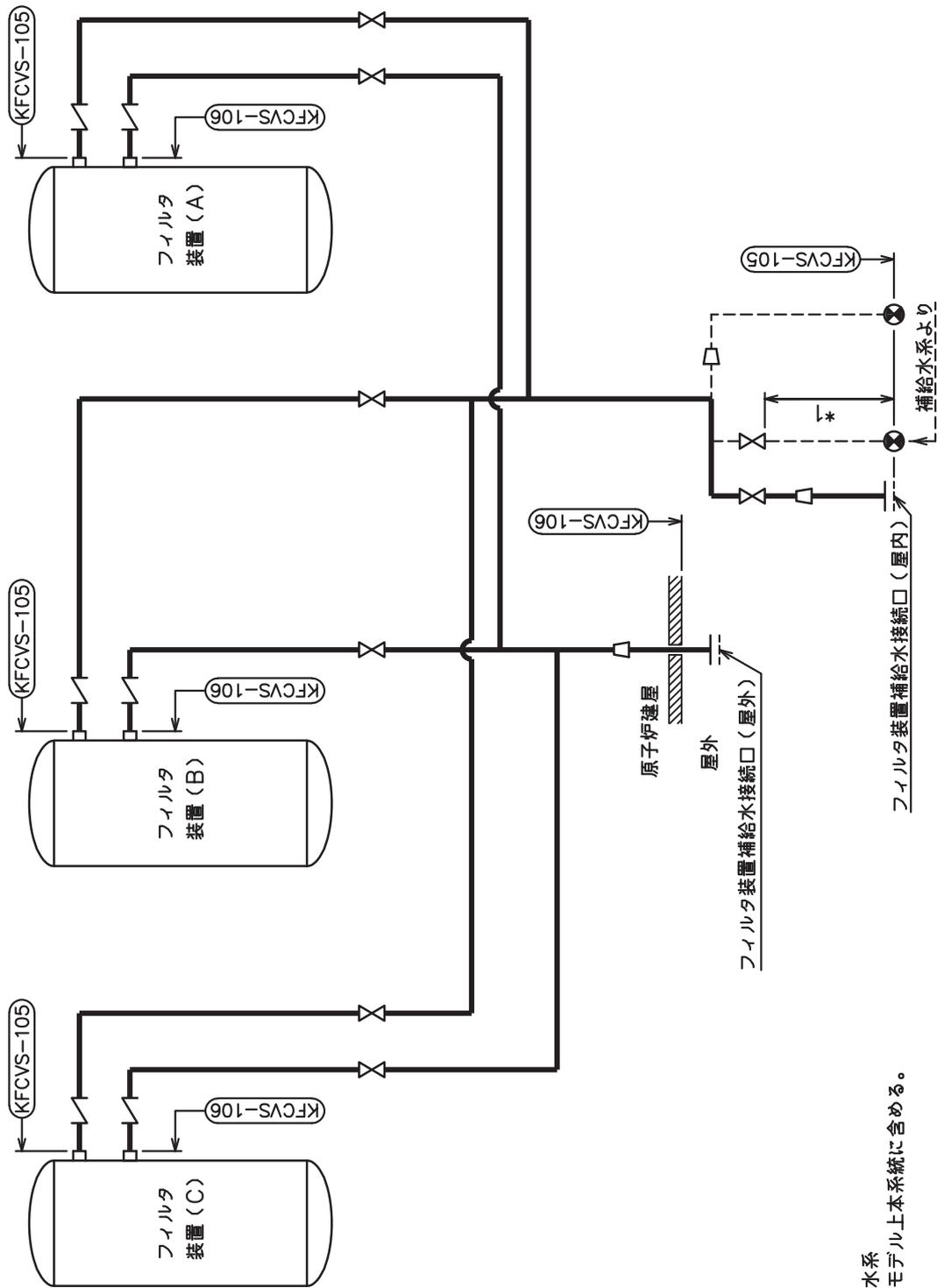
機能確認済加速度の機能維持評価用加速度に対する裕度が最小となる動的機能維持要求弁を代表として、評価結果を記載する。

2. 概略系統図及び鳥瞰図

2.1 概略系統図

概略系統図記号凡例

記 号	内 容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管
	鳥瞰図番号
	アンカ

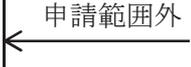
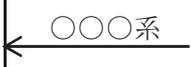
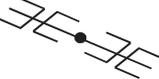
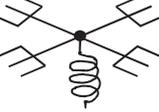
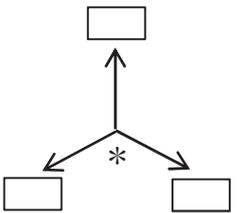


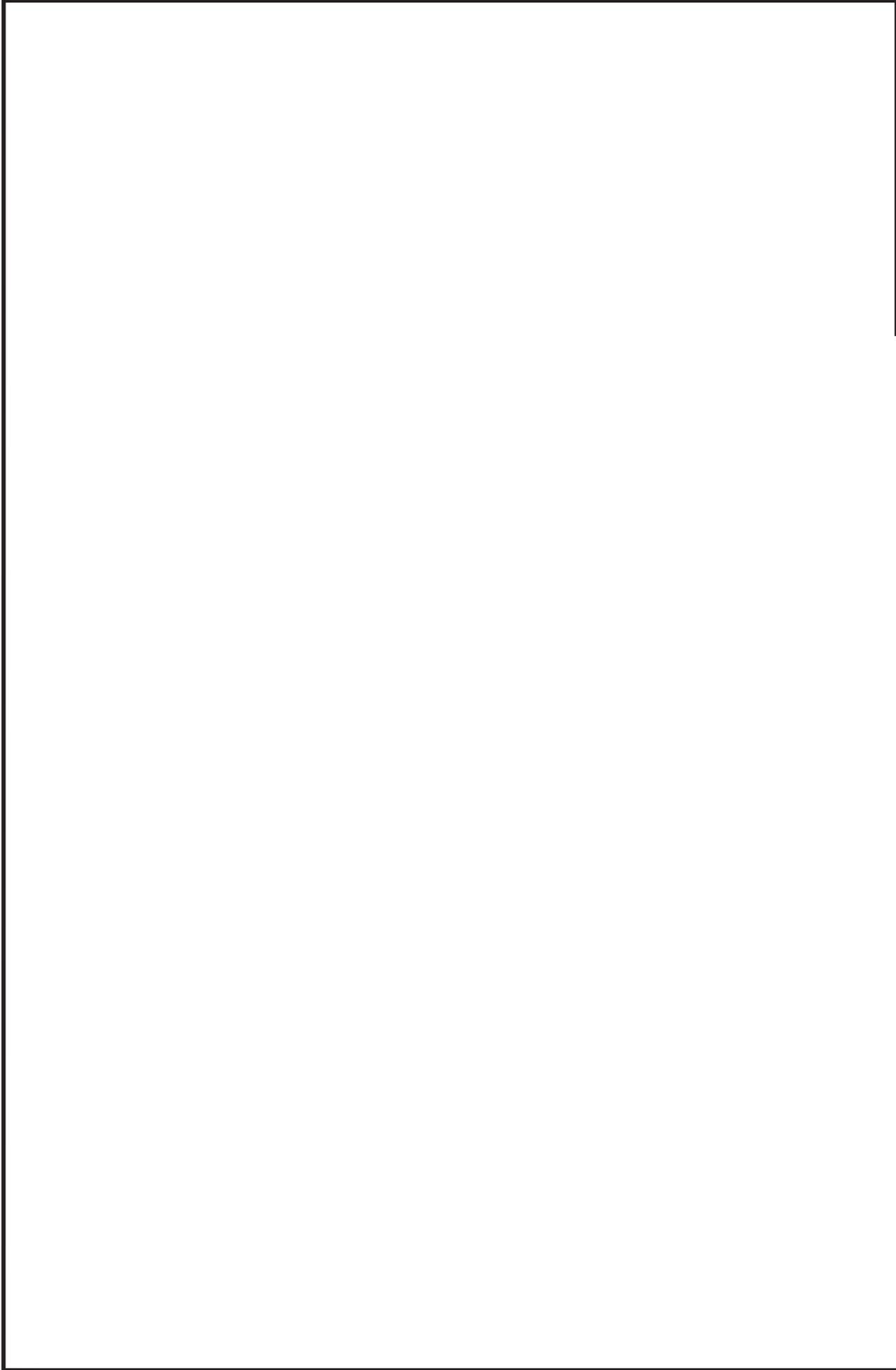
注記 *1: 補給水系
解析モデル上本系統に含める。

原子炉格納容器フィルタレント系概略系統図(その2)

2.2 鳥瞰図

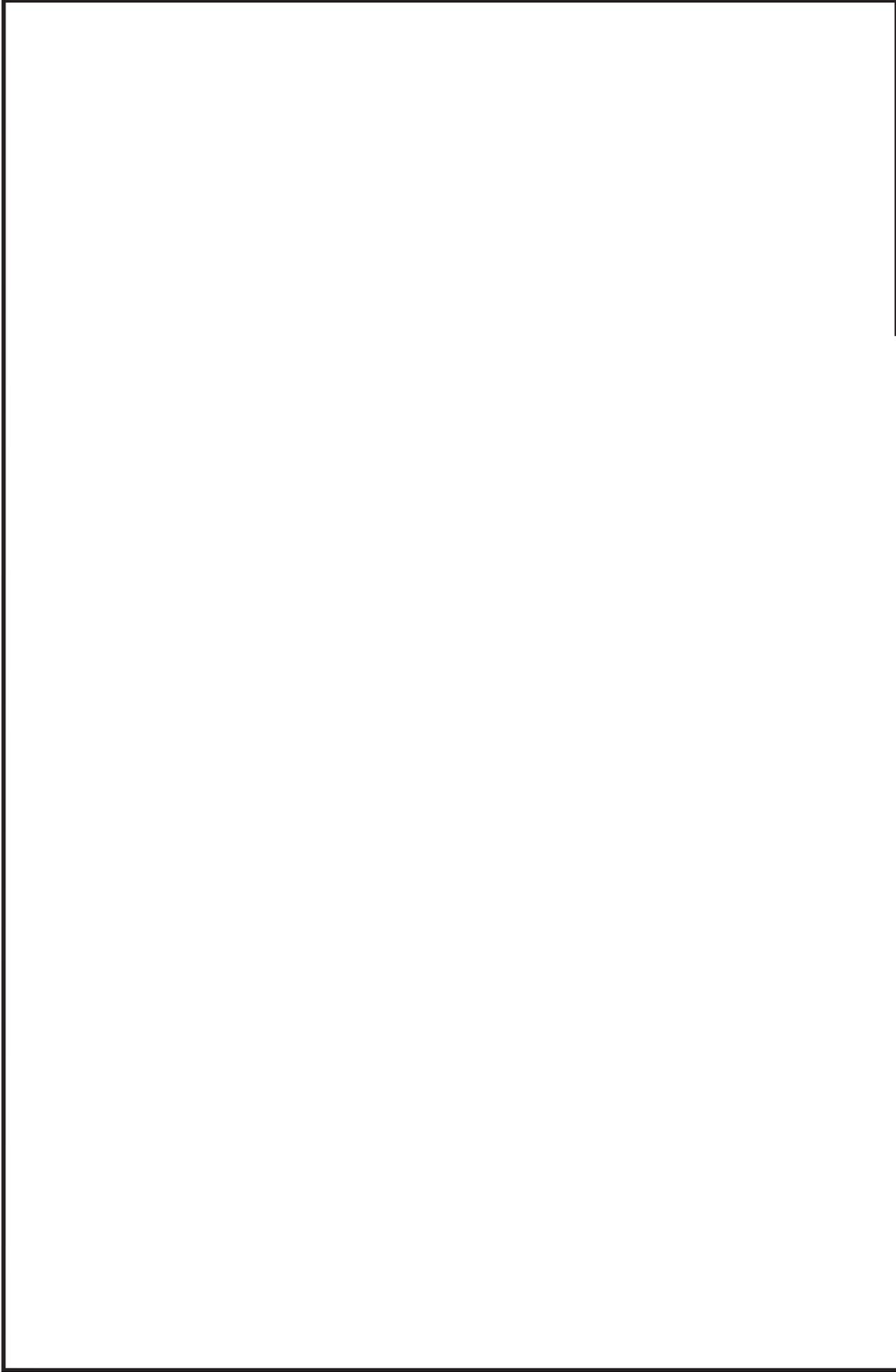
鳥瞰図記号凡例

記号	内容
	<p>工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管</p>
	<p>工事計画記載範囲外の管</p>
	<p>工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって解析モデルとして本系統に記載する管</p>
	<p>質点</p>
	<p>アンカ</p>
	<p>レストレイント (矢印は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。スナップについても同様とする。)</p>
	<p>スナップ</p>
	<p>ハンガ</p>
	<p>ガイド</p>
	<p>拘束点の地震による相対変位量(mm) (*は評価点番号, 矢印は拘束方向を示す。また, 内に変位量を記載する。)</p>



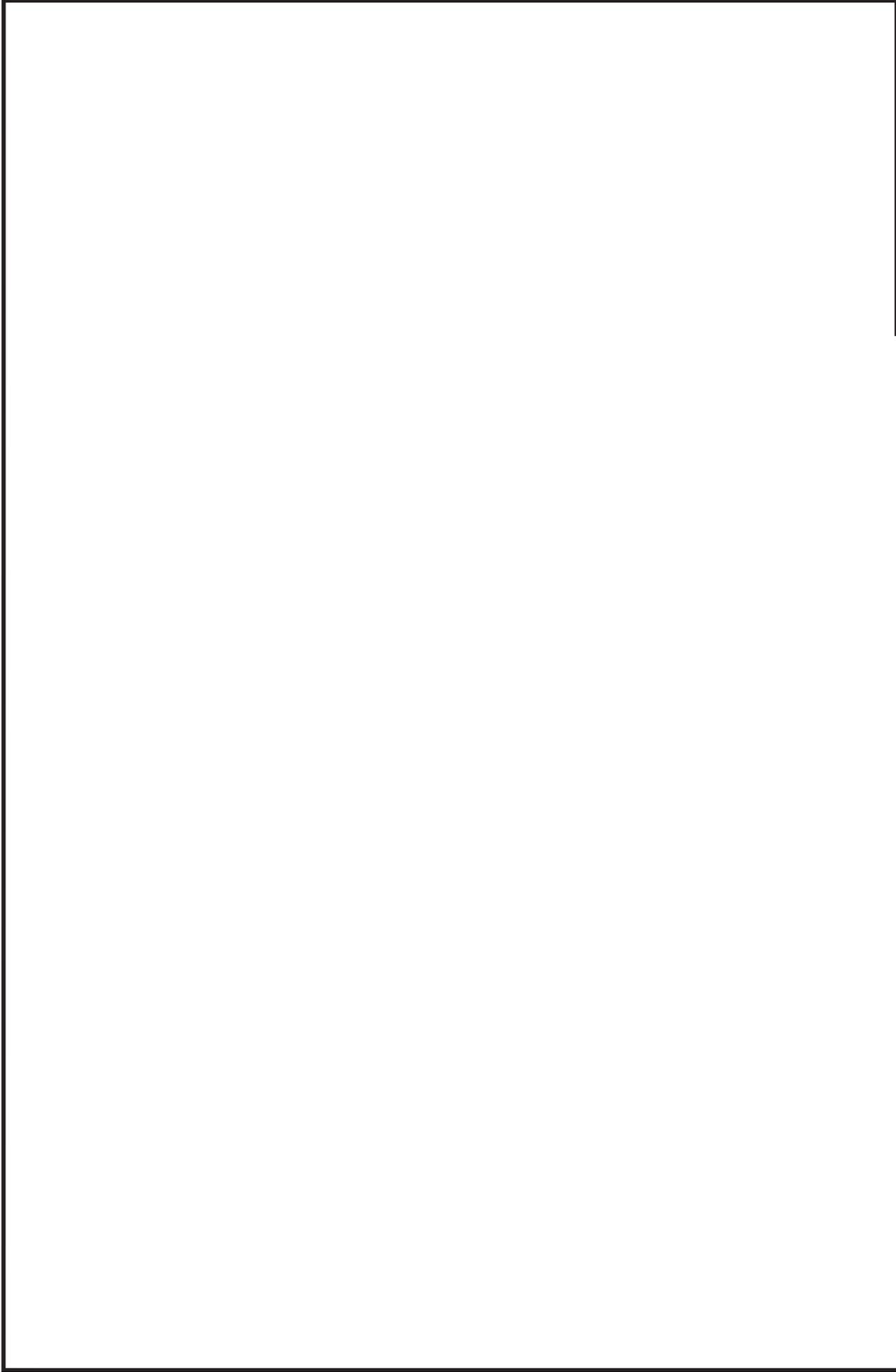
鳥瞰図 FCVS-003-1/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



鳥瞰図 FCVS-003-2/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



鳥瞰図 FCVS-003-3/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

3. 計算条件

3.1 計算方法

管の構造強度評価は、「基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。解析コードは、「I S A P」及び「S A P - V」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。

3.2 荷重の組合せ及び許容応力状態

本計算書において考慮する荷重の組合せ及び許容応力状態を下表に示す。

施設名称	設備名称	系統名称	施設分類*1	設備分類*2	機器等の区分	耐震重要度分類	荷重の組合せ*3,*4	許容応力状態*5
原子炉格納施設	圧力逃がし装置	原子炉格納容器 フィルタベント 系	SA	常設耐震/防止 常設/緩和	重大事故等 クラス2管	—	V _L (L) + S d V _L (LL) + S s V _L + S s	V _A S
原子炉格納施設	放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備	原子炉格納容器 フィルタベント 系	SA	常設/緩和	重大事故等 クラス2管	—	V _L (L) + S d V _L (LL) + S s V _L + S s	V _A S
原子炉冷却系統施設	残留熱除去設備	原子炉格納容器 フィルタベント 系	SA	常設耐震/防止	重大事故等 クラス2管	—	V _L (L) + S d V _L (LL) + S s V _L + S s	V _A S

注記*1：DBは設計基準対象施設，SAは重大事故等対処設備を示す。

*2：「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備を，「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

*3：運転状態の添字Lは荷重，(L)は荷重が長期間作用している状態，(LL)は(L)より更に長期的に荷重が作用している状態を示す。

*4：許容応力状態ごとに最も厳しい条件又は包絡条件を用いて評価を実施する。

*5：許容応力状態V_ASは許容応力状態IV_ASの許容限界を使用し，許容応力状態IV_ASとして評価を実施する。

3.3 設計条件

鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管名称で区分し，管名称と対応する評価点番号を示す。

鳥 瞰 図 F C V S - 0 0 3

管名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震 重要度分類	縦弾性係数 (MPa)
1	854kPa (0.854MPa)	200	406.4	12.7	SUS316L	—	183000
2	854kPa (0.854MPa)	200	406.4	12.7	STS410	—	191000
3	854kPa (0.854MPa)	200	508.0	15.1	STS410	—	191000
4	854kPa (0.854MPa)	200	508.0	15.1	SM400C	—	191000
5	854kPa (0.854MPa)	200	508.0	15.1	SUS316L	—	183000
6	854kPa (0.854MPa)	200	508.0	26.2	SUSF316L	—	183000

設計条件

管名称と対応する評価点
 評価点の位置は鳥瞰図に示す。

鳥 瞰 図 F C V S - 0 0 3

管名称	対 応 す る 評 価 点														
1	1	2	10	11	22	23	31	32	42	43	51	52			
2	2	3	4	5	6	7	11	12	13	14	15	16	23	24	25
	26	27	28	32	33	34	35	36	37	43	44	45	46	47	48
	52	53	54	55	56	57									
3	7	8	9	16	17	18	20	21	28	29	30	37	38	39	40
	41	48	49	50	57	58	59	60	61	62	63	64	65	67	69
	70	71	72	76	77	79	80	81	82	83	84	86	87	89	90
	92	93													
4	18	19	20	39	40	59	60	61	62	63	64	67	68	69	70
	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	84	85	86	87
	88	89	90	91	92	93	94	95	97	98	131				
5	100	101	102	103	104	105	106	107	108	132					
6	108	109													

配管の質量（付加質量含む）

鳥 瞰 図 F C V S - 0 0 3

評価点の質量を下表に示す。

評価点	質量(kg)								
1		23		45		68		90	
2		24		46		69		91	
3		25		47		70		92	
4		26		48		71		93	
5		27		49		72		94	
6		28		50		73		98	
7		29		51		74		100	
8		30		52		75		101	
9		31		53		76		102	
10		32		54		77		103	
11		33		55		78		104	
12		34		56		79		105	
13		35		57		80		106	
14		36		58		81		107	
15		37		59		82		108	
16		38		60		83		109	
17		39		61		84		131	
18		40		62		85		132	
19		41		63		86			
20		42		64		87			
21		43		65		88			
22		44		67		89			

弁部の質量を下表に示す。

弁 1

評価点	質量(kg)
95	
96	
97	
128	
129	
130	

弁部の寸法を下表に示す。

弁NO.	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)
弁1	96			

O 2 ③ VI-2-9-4-6-1-1 (重) R 0

支持点及び貫通部ばね定数

鳥 瞰 図 F C V S - 0 0 3

支持点部のばね定数を下表に示す。

支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
1						
10						
22						
31						
42						
51						
68						
** 73 **						
** 75 **						
** 78 **						
85						
** 88 **						
91						
98						
104						
106						
109						

O 2 ③ VI-2-9-4-6-1-1 (重) R 0

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

3.4 材料及び許容応力評価条件

使用する材料の最高使用温度での許容応力評価条件を下表に示す。

材料	最高使用温度 (°C)	S _m (MPa)	S _y (MPa)	S _u (MPa)	S _h (MPa)
SM400C	200	—	193	373	—
STS410	200	—	207	404	—
SUS316L	200	—	120	407	—
SUSF316L	200	—	120	382	—

3.5 設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答曲線を下表に示す。

なお、設計用床応答曲線は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき策定したものをを用いる。また、減衰定数は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

鳥 瞰 図	建物・構築物	標高(O.P. (m))	減衰定数(%)
F C V S - 0 0 3	原子炉建屋		

4. 解析結果及び評価

4.1 固有周期及び設計震度

鳥瞰図 FCVS-003

モード	適用する地震動等		S d 及び静的震度			S s		
	固有周期 (s)	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1		応答水平震度*1		応答鉛直震度*1
		X方向	Z方向	Y方向	Y方向	X方向	Z方向	Y方向
1次								
2次								
3次								
4次								
5次*2								
動的震度*3								
静的震度*4								

注記*1：各モードの固有周期に対し、設計用床応答曲線より得られる震度を示す。
 *2：固有周期が0.050s以下であることを示す。
 *3：S d又はS s地震動に基づく設計用最大床応答加速度より定めた震度を示す。
 *4：3.6C_I及び1.2C_Vより定めた震度を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

各モードに対応する刺激係数

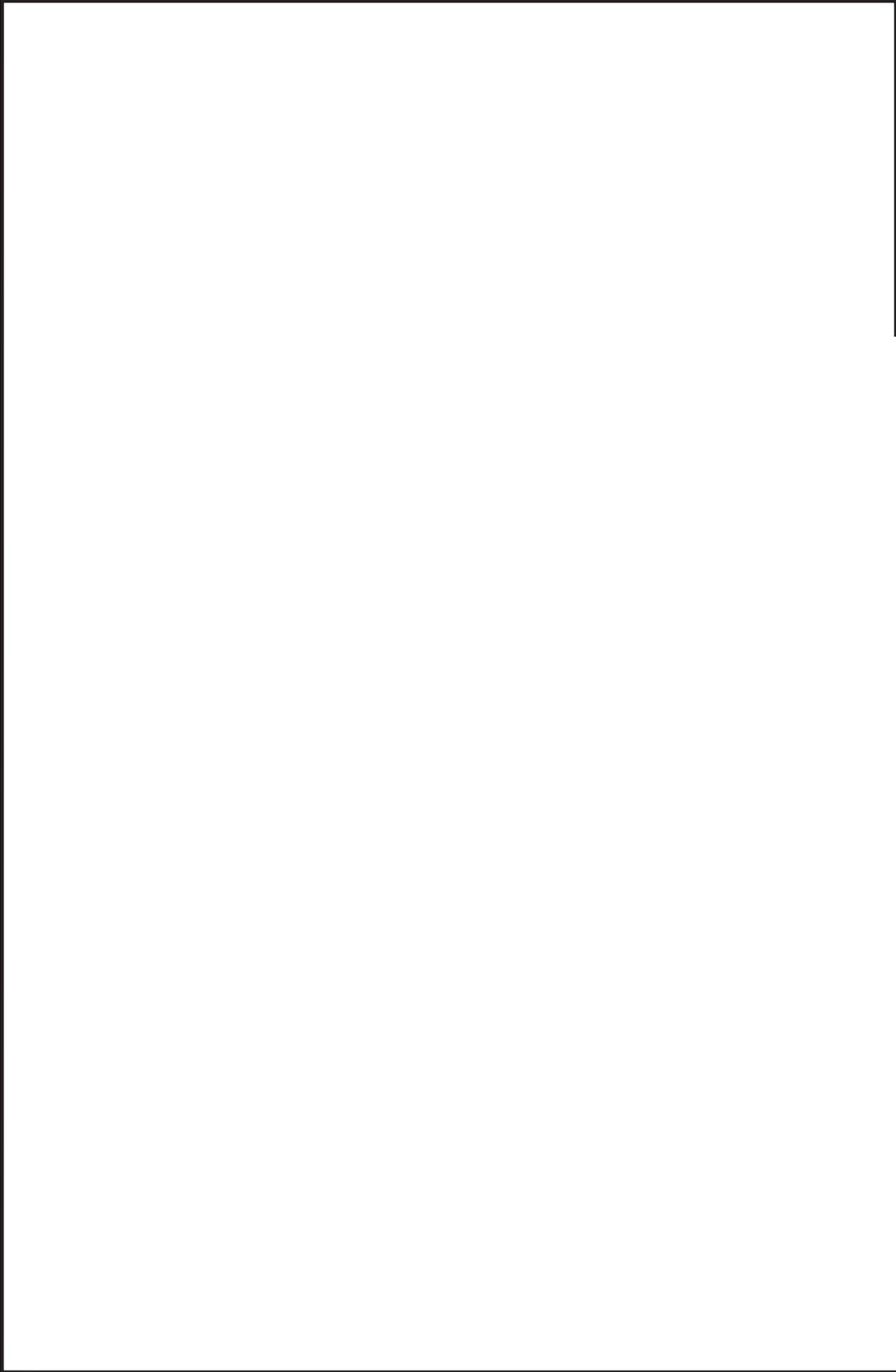
鳥瞰図 FCVS-003

モード	固有周期 (s)	刺激係数*		
		X 方向	Y 方向	Z 方向
1 次				
2 次				
3 次				
4 次				

注記*: 刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。

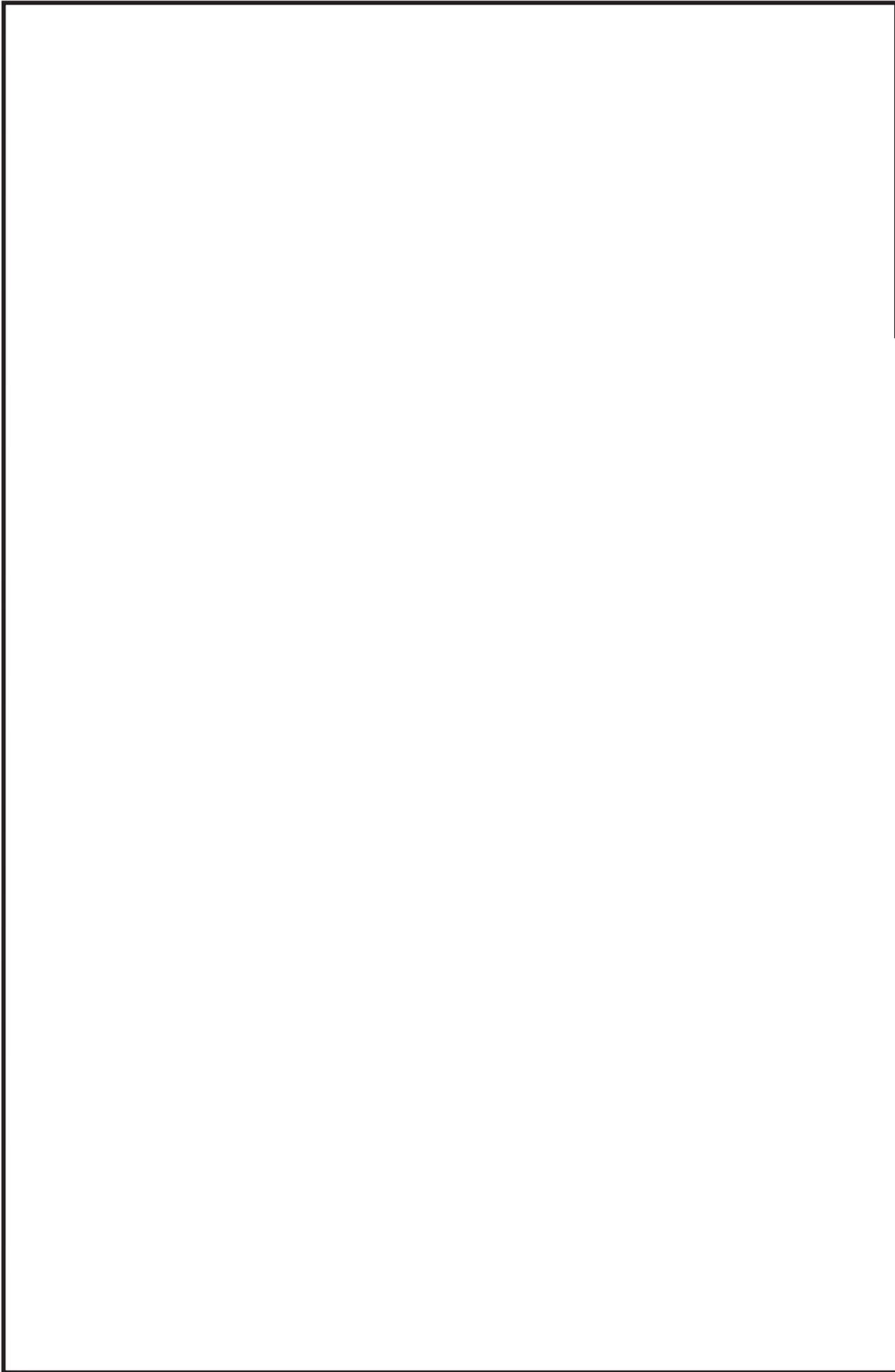
代表的振動モード図

振動モード図は、3次モードまでを代表とし、各質点の変位の相対量・方向を破線で図示し、次ページ以降に示す。



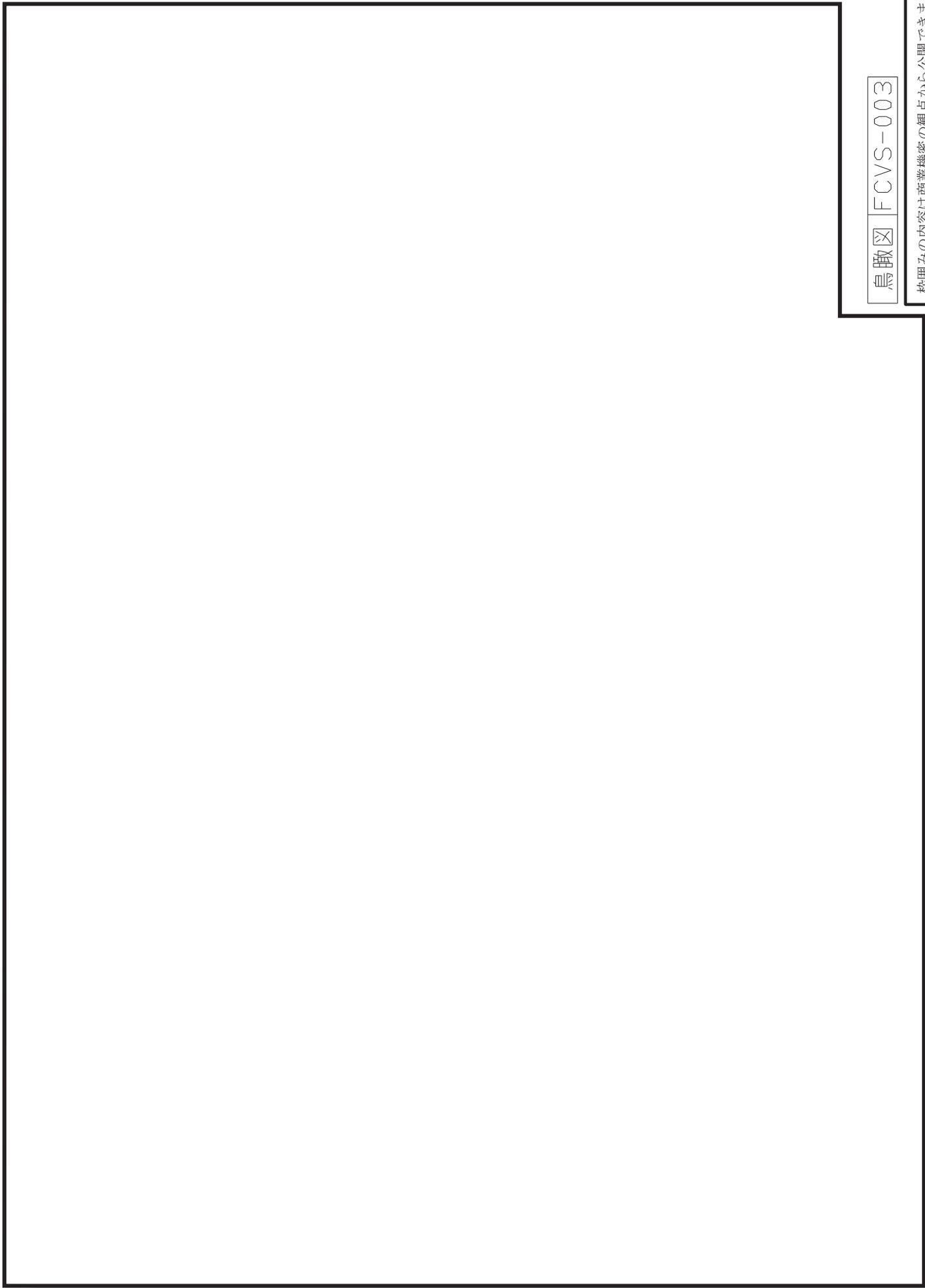
鳥瞰図 FCVS-003

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



鳥瞰図 FCVS-003

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



鳥瞰図 FCVS-003

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

4.2 評価結果

4.2.1 管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管

鳥瞰図	許容応力 状態	最大応力 評価点	最大応力 区分	一次応力評価 (MPa)		一次+二次応力評価 (MPa)		疲労評価
				計算応力 Sprm(Ss)	許容応力 0.9・Su	計算応力 Sn(Ss)	許容応力 2・Sy	
FCVS-003	V _A S V _A S	10 1	Spr m(Ss) Sn(Ss)	136 —	366 —	— 302*	— 240	— 0.3849

*印は一次+二次応力が許容応力を超えていることを示し、簡易弾塑性解析を行い疲労評価の結果疲労累積係数が1以下であり許容値を満足している。

4.2.2 支持構造物評価結果

下表に示すとおり計算応力及び計算荷重はそれぞれの許容値以下である。

支持構造物評価結果 (荷重評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	評価結果	
					計算 荷重 (kN)	許容 荷重 (kN)
FCVS-003-078S	メカニカルスナッパ	SMS-10-100	添付書類「VI-2-1-12-1 配管及び支持構造物の耐 震計算について」参照		110	230
FCVS-003-073B	ロッドレストレイント	RTS-16			125	240

支持構造物評価結果 (応力評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	支持点荷重							評価結果		
					反力 (kN)			モーメント (kN・m)				応力 分類	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)
					F _x	F _y	F _z	M _x	M _y	M _z				
FCVS-003-104R	レストレイント	架構	STKR400	66	364	0	258	—	—	—	—	—	106	433
FCVS-003-109A	アンカ	架構	STKR400	40	460	507	301	725	65	1095	せん断	102	282	
FCVS-004-008R	レストレイント	架構	STKR400	40	196	0	95	—	—	—	組合せ	71	280	

4.2.3 弁の動的機能維持評価結果

下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は計算応力が許容応力以下である。

弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		機能確認済加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		構造強度評価結果 (MPa)	
			水平	鉛直	水平	鉛直	計算応力	許容応力
■	■	■	■	■	■	■	—	—

4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と余裕を算出し、応力分類ごとに余裕が最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管)

No.	配管モデル	許容応力状態 VAS														
		一次応力						一次+二次応力						疲労評価		
		評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	余裕	代表	評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	余裕	代表	評価点	疲労 累積 係数	代表		
1	FCVS-001	31	114	363	3.18	—	31	218	414	1.89	—	—	—	—		
2	FCVS-002	73	127	363	2.85	—	70	226	414	1.83	—	—	—	—		
3	FCVS-003	10	136	366	2.69	○	1	302	240	0.79	○	1	0.3849	○		
4	FCVS-004	3	132	366	2.77	—	3	274	240	0.87	—	3	0.3833	—		
5	KFCVS-101	37	113	363	3.21	—	35	204	414	2.02	—	—	—	—		
6	KFCVS-105	59	70	366	5.22	—	84	213	240	1.12	—	—	—	—		
7	KFCVS-106	6	90	413	4.58	—	60	236	318	1.34	—	—	—	—		
8	KFCVS-108	10	41	366	8.92	—	1	90	240	2.66	—	—	—	—		
9	KFCVS-109	8	93	366	3.93	—	8	171	240	1.40	—	—	—	—		
10	KFCVS-111	11	91	366	4.02	—	11	163	240	1.47	—	—	—	—		